

2005年千葉県知事選・全県域一斉・マニフェスト型合同個人演説会 報 告 書

1. 開催結果

選挙期間中(2005.2.24～3/12)に、合同個人演説会を5回開催、来場者数は合計2,900人。

	開催地	日程	企画・運営団体	コーディネーター	出席候補	来場者数
1	浦安市	2/27(日)	浦安で公開討論会を開催する会	山田厚史氏	堂、山、森	800人
2	東金市	3/3(木)	(社)日本JC千葉ブロック協議会	岸井成格氏	堂、山	400人
3	成田市	3/7(月)	(社)日本JC千葉ブロック協議会	田岡俊次氏	堂、山	600人
4	千葉市	3/8(火)	(社)日本JC千葉ブロック協議会	田岡俊次氏	堂、山	400人
5	松戸市	3/10(木)	松戸で公開討論会を開く市民の会	北川正恭氏	堂、山	700人

<出席候補略称> 堂：堂本暁子候補、山：山田安太郎候補、森：森田健作候補

2. 目標達成度

当企画は、全国で最も豊富な公開討論会実績を持つ千葉県の各団体が結集し、**全国最下位付近で低迷を続ける千葉県知事投票率を向上させることを最終目標**とし、そのために、**これまでの公開討論会の反省点を一気に解決するための革新的な目標と手段**をマニフェストとして掲げた。その目標達成度を報告する。

	これまでの選挙や公開討論会の問題点	成果	意義、証明したこと
1	県知事選は選挙期間が長期間に及ぶため、選挙前に行われる公開討論会では、間もなく選挙があるという認識が有権者に浸透しておらず、公開討論会への関心を持ちにくい	選挙期間中に、合同個人演説会として開催した	選挙期間中であれば有権者の選挙への関心は高い。特に有力候補が1名欠けても多くの来場者新記録を達成したのはその現れである。
2	県庁所在地で公開討論会を開催しても、県民の大半は遠くて見にいけない	全県域にまたがる5箇所で開催した	地方でもこのような機会を求めている
3	地域によって県政の主要課題は異なるのに、1箇所での公開討論会開催だと、総花的な質問テーマにせざるを得ない	会場毎に、地域住民にゆかりのある質問時間に重点配分し、全会場をインターネット音声放送でつないだ	地域住民に関心の高い質問のため、リップサービスだけで言い逃れすることはできない環境が出来た
4	県知事選候補者は巨額の選挙資金が必要なので、資金力のない候補は資金提供者としがらみが生まれやすい	総額92万円(候補者が按分負担)で実現できた	イギリス流の100万円選挙実現も夢ではない
5	ローカル・マニフェストを出す候補者が増えているのに内容を聞く場がない	選管公認でローカルマニフェストを配布し、議論できた	今回確立されたノウハウが、全国に普及する

3. 新記録

当企画は、リンカーン・フォーラムが1996年から9年間、870回に渡って積み上げてきた公開討論会の様々な記録を塗り替えた。

同じ選挙での開催回数

同じ選挙での開催数5回は全国第2位。(1位:6回の03年兵庫県佐用町議選)

県知事選としては全国第1位(2位:3回の03年青森県知事選<うち、合同演説会は2回>、01年静岡県知事選<全て告示前>、01年千葉県知事選<うち、合同演説会は2回>)

来場者数(合計)

来場者数合計2,900人は全国第1位。2位以下を大きく引き離れた。(2位以下は別表参照)

【これまでのリンカーン・フォーラム方式公開討論会(合同演説会含む)来場者数上位】

順位	来場者数	年	選挙	方式	投票率前回比
1	1,900人	1998	長崎県知事選	合同個人演説会	+3.02ポイント
2	1,700人	2001	群馬県伊勢崎市長選	公開討論会	未調査
3	1,400人	1999	富山県新湊市長選	公開討論会	+25.24ポイント
4	1,300人	1999	愛知県半田市長選	公開討論会	未調査
4	1,300人	2000	総選挙福島4区	公開討論会	未調査
4	1,300人	2002	福島県白河市長選	公開討論会	+16.53ポイント
7	1,200人	1999	大阪府藤井寺市長選	公開討論会	+8.50ポイント
14	1,160人	2001	千葉県知事選(3会場合計)	公1回、合同2回	+8.21ポイント

来場者数(単独、知事選)

浦安会場の入場者数800人は、県知事選単独会場として、全国第4位

【これまでのリンカーン・フォーラム方式公開討論会(合同演説会含む)来場者数上位】

順位	来場者数	年	選挙	方式	投票率前回比
1	1,900人	1998	長崎県知事選	合同個人演説会	+3.02ポイント
2	1,200人	2002	長野県知事選	合同個人演説会	未調査
3	1,000人	2000	長野県知事選	公開討論会	-1.14ポイント
4	800人	1999	東京都知事選	公開討論会	未調査
4	800人	1998	愛媛県知事選	公開討論会	+8.98ポイント

選挙管理委員会公認で、選挙期間中に、合法的にローカル・マニフェストを配布
全国初の快挙(2004年八女市長選で配布実績があるが、告示前で、しかも無認可)

合同個人演説会でのローカル・マニフェスト配布数

3候補合計で6,400部のローカル・マニフェスト配布は全国第1位

4．出演交渉

当企画では全期間を通じ、森田候補、および堂本候補との出演交渉に困難を極めた。

森田候補は5会場中、浦安会場に1時間弱だけの参加となった。また当初は全5会場に参加を決めていた堂本候補は、森田候補が4会場に欠席することに不満を表明し、一時は4会場への欠席を申し入れてきたが、繰り返しの交渉の結果、全会場への参加に戻っていただけた。

もとより、選挙期間中に複数回実施する当企画に対し、候補者側からの反発は予想していた。そしてこれまでの公開討論会(合同演説会)はそのような反発を避けるために、無難な企画に終始していたため、有権者への啓発力を大きく伸ばすことが出来なかった。

当企画における出演交渉はいくつかの問題を残したが、これまでの選挙や公開討論会が抱える現状を打破する上で、必ず乗り越えなければならなかった壁であった考える。

5．良かった点・反省点

(1) 良かった点

来場者にとって

- ・ 身近な場所で候補者を同時に比較できた
- ・ 郷土の抱える問題点や課題が鮮明になった
- ・ ローカル・マニフェストの説明を聞くことが出来、県政への理解が高まるとともに、県政を監視するひとりとしての自覚が促された

候補者にとって

- ・ 有権者へのアピール度を、従来型の選挙よりも大幅に向上できた
- ・ 他の候補との違いを強調できた
- ・ 回数を重ねるごとに、演説能力に磨きがかかってきた
- ・ ローカルマニフェストを配布し、説明できた
- ・ 選挙費用の一部を削減できた

運営側にとって

- ・ 複数の実行委員会の相乗効果によって、単独の実行委員会では不可能だったことを実現することが出来た
- ・ ローカルマニフェストを合法的に配布する仕組みを構築できた
- ・ 未成年模擬投票とのタイアップで、未来の有権者を育てる一助となった

(2) 反省点

- ・ 出演交渉
- ・ 集客
- ・ テレビ放映交渉

以上